



# 愛隣幼稚園..... 園だより ..... 13. 2月号

## 子どもたちのため？

1月15日、連休明けの園庭は一面真っ白の雪景色でした。聞けば15年ぶりの“雪の成人式”であったとか。私事ですが、我が家の次女もこの日が成人式でした。愛隣でお世話になり「ほし組」の仲間たちと卒業し、成人式の会場では、その仲間たちと記念撮影をして帰ってきました。去年、成人式だった長女（はむすた一組）も、仲間たちが集まって記念撮影をしていました。成人式の会場で幼稚園時代の仲間たちで集まって記念撮影をするなんて、ちょっと驚きでした。もちろん彼らが仲間を結びつける便利な道具を携帯していることが、それを容易にしていますが、「会いたい！」「一緒に写真撮ろう！」という衝動が起こらなければこれはできないことです。増して、我が家の2人は小学校以降を愛隣の学区外で過ごしていますから、私が言うのもおかしいのですが『あいりん、おそろべし！』です。

そんな彼らは所謂“ゆとりちゃん”と呼ばれる世代でもあります。確かに小学校の時も中学校の時も、教科書から省かれてしまったことが山のようにあり、驚くこともしばしばでした。《ゆとり教育》そのものについてここでは話題にしません。ただ、彼らが望んでそのような教育を受けたわけではないのに“ゆとり世代”という蔑称で呼ばれるのは如何なものでしょう。そのうえ《ゆとり教育》は学力低下を招いたと、慌てて今を否定してあっという間に過去に戻ってやり直しです。学校週5日制も、6日制に戻そうという方向に向かっています。そもそも、《ゆとり教育》ってどうして始まったのでしょうか？過去の詰め込み教育を反省してのことであったような・・・でも、もしかして、やっぱり、世の中全部を5日制（週の労働時間を40時間とするの世の中の動きを背景として）にするためだったのかなあ・・・。それでなんだか学校教育はうまくいかなかったから、元に戻すってことでしょうか。また、とぼっちりを受けるのは子どもたちのような気がします。

大阪の高校で起こっている事も気になります。体罰が横行するような部活動が当たり前のように行われていたのを、野放しにしていたのは大人の責任です。子どもが自ら命を断つという手段に訴えなかったら、きっと今日だって同じことが続いていたのです。更に今回の入試の中止という措置。他に方法はないのでしょうか。大人の反省をふまえて、もっと建設的に知恵を出し合って教育の再生を図らなければ意味がない、子どもたちへの影響は最小限に食い止めるべきです。これではまるで子どもたちが罰を受けているような感じがします。

あと少しでながれほしの仲間たちは小学生になります。学校の先生たちからは以下のような事が出来るようにしておいてください、と言われたりします。＜自分の名前くらいは書けるように＞＜40分間、椅子に座ってられるように＞＜昼食は20分で食べ終わるように＞などなど・・・これらができるように幼稚園で指導しておいてほしいようです。子どもたちがムーズに学校生活に移行できるように、ということでしょうか。前述のことも同様ですが、子どものためにと言いながら、大人の都合が見え隠れします。いつも子どもたちは振り回されています。愛隣は文字の指導をしません。あそびの中で仲間とのやり取りの中で、子どもたちは自ずと「字というものは読めたらおもしろい、書けたら便利かもしれない」ということに気づき、『読めるようにになりたい、書けるようになりたい』という欲求が起こります。幼児期にしておくべきは、この興味や関心や意欲が湧いてくるような経験です。やってみたいと動き出す心を育てておきたいのです。お日様がきらきら輝く時間に、この子らを40分間も椅子に座らせておくなんて、そんなもったいないこともできません。幼稚園のお昼ご飯は、大好きな仲間たちと食事をするのは楽しい！と感じる時間です。早く食べられる指導をする時間ではありません。どれも、小学校に入る前にできていれば入学からしばらくの間はその蓄えでうまくいかもしくれません。でも幼児期に大事なことは、あっという間に使いきってしまう貯金を蓄えることではないのです。

「子どもたちのために」と言いながら、実は大人の都合が優先されています。何が本当に「子どもたちの幸せに繋がるのか」、私たちは選択を誤らないようにしなければと思います。